

請願第4号

私立幼稚園幼児教育振興助成に関する請願

紹 介 議 員
佐 藤 新 一
飛鳥井 佳 子

私立幼稚園幼児教育振興助成に関する請願

【請願の要旨】

1. 「私立幼稚園健康診断補助金」を乙訓管内の全幼稚園にお願いしたい。
2. 保育園のICT化に伴う補助と同額にするために、補助金をお願いしたい。
3. 二歳児への幼児教育を行う幼稚園への補助金をお願いしたい。
4. 2027年に開設予定の発達支援センターの運営内容が乙訓地区の現状に対応したものになるために、関係者の意見が反映できる体制を作るように、子ども子育て会議を活用するようにお願いしたい。

【請願の理由】

幼児教育は、先進国においては、持続可能な社会形成のためには不可欠なものであると理解し、良質の幼児教育を幼児たちが受けることができるための政策を実施しています。日本でも、2019年度の幼児教育の無償化が開始され、他の先進国と並ぼうとしていますが、まだ、まだ、幼児教育の充実を助ける政策は不十分なものです。すこしでも、良質の幼児教育を子どもたちに受けさせるために、幼児教育の中心を担っている幼稚園への援助と幼児教育を支える地域の環境整備をお願いしたく思い、この請願をなしました。

【請願の内容】

1. 「私立幼稚園健康診断補助金」を乙訓管内の全幼稚園にお願いしたい。」
教材費補助に代わり、大山崎町、長岡京市は、健康診断と歯科検診のための費用を幼稚園に補助をし、その園児たちの健康への配慮を行って来ています。これを乙訓全体で行っていただきたく思います。そして、各幼稚園の所在地に属する園児のみの補助でなく、二市一町に在住する園児であれば、二市一町に所在地のある幼稚園に登園しようとも、健康診断、歯科検診に関する補助が受けられるようお願いしたい。
2. 保育園のICT化に伴う補助と同額にするために、補助金をお願いしたい。
全国の市町村で、保育園にもICT化の補助が打たれています。公立保育においても、ICT化が進められています。私立幼稚園でも、府から補助がありますから、ICT化なしには、教育と福祉の分野においても、その質を保持できなくなっているのです。しかし、保育園と幼稚園の市町村のICT化の補助には格差があり、幼児を同じように

保育教育する施設として、納得がいかないものです。この格差を埋めるためにも、市町村からの補助をお願いしたい。

3. 二歳児への幼児教育を行う幼稚園への補助金をお願いしたい。

最近では、乳幼児一元化の議論も起こり、幼稚園にも二歳児を託そうという動きがあります。これは、地域の絆が失われ、地域の教育力が下がっていることと関連しているのです。そのために、幼稚園に対して、親と二歳児の通園や二歳児の幼稚園での受け入れ要請を国や府レベルで行政が推し進めています。が、現状は、子育て支援の一環として、幼稚園自身の自己負担で、その事業を担っています。よって、二歳児への幼児教育や子育て支援に対して、国や府はこの援助を決めました。市町村在住の保護者の援助として、市町村でも補助金をお願いしたい。

4. 2027年に開設予定の発達支援センターの運営内容が乙訓地区の現状に対応したものになるために、関係者の意見が反映できる体制を作るように、子ども子育て会議を活用するようにお願いしたい。

発達支援のために、南部では、京田辺市にしかなかった発達支援センターが乙訓管内で開設していただけるようになったのは、大きな前進です。幼児期の発達支援のためには、このセンターと幼児教育との連携は、とても重要なものになります。その準備として、各市町村にある子ども子育て会議などで進捗状況を開示し、また、その役割と運営に関して、幼児教育と療育と両輪において支えるという観点から、乙訓地区内の幼稚園の意見を反映できるものにしてほしい。

以上4点につきまして、乙訓の行政が世の中の人材育成の根本や本質にあたる幼児教育や療育に関して直接しっかりと支えるという体制をとる事を公に示すことで、社会もこれを評価し、その結果ますます乙訓地域の健全な発展を促すものと信じています。どうぞよろしくお願ひします。

以上、私たち乙訓地区の私立幼稚園の保護者と教職員は地域住民の期待に応えるため署名簿を添えて助成を請願いたします。

令和3年11月26日

請 願 者

向日市議会議長
長 尾 美矢子 様